

大学院教育改革支援プログラム「専攻横断型の包括的保健医療職の育成」

THP養成コース公開シンポジウム

患者・家族中心の在宅療養を実現するために

－住み慣れた地域で、家族との生活を支える多職種協働－

医療が在宅中心に転換する流れの中で、患者の早期退院を目指した支援が推進されています。本来、在宅医療の意義は、対象の健康状態に応じた形で、住み慣れた地域で、家族と共に生活を営むことにあると思われませんが、発達段階や健康問題に特徴付けられる在宅支援の在り方やその体制については、未だ十分に確立されているとは言えません。

そこで、本シンポジウムでは、欧米で推進されている患者・家族中心のケアの理念に基づき、現代の在宅医療の意義を考えると共に、欧米における在宅介護者の実態から日本で在宅療養を継続する方とその家族が抱える問題を見出すこと、さらには、各地域・領域で取り組まれている新しい支援体制の取り組みを共有することにより、住み慣れた地域で家族と共に生活することを支える在宅療養やその実現に向けた多職種協働のあり方について検討したいと考えます。

日時 2010年3月7日（日）10:00～17:00 <開場 9:30>

場所 ホテル名古屋ガーデンパレス 3階 葵・泉（名古屋市中区錦3丁目11-13）

10:00 開会の挨拶

10:05～10:20 THP養成コース3年間の振り返り

奈良間 美保（名古屋大学医学部保健学科 プログラム代表）

10:20～11:50 基調講演1（同時通訳あり）

Patient- and Family-Centered Care, the Philosophy and Clinical Implication

Terry Griffin（St. Alexius Medical Center, RNC, MS, NNP）

11:50～13:00 休憩

13:00～14:10 基調講演2

日本の在宅介護者の現状と支援体制の課題－欧米との比較から－

三富 紀敬（静岡大学人文学部 教授）

14:10～14:20 休憩

14:20～16:50 シンポジウム「住み慣れた地域で、家族との生活を支える在宅療養」

在宅療養を継続する子どもと家族を支えるレスパイトケア

高橋昭彦（ひばりクリニック 院長）

認知症をもつ高齢者と家族の願いを実現するケア

臼倉公子（ニチイ総合研究所）

在宅療養を継続しながら自分らしく生きることを支えるリハビリテーション

小山 樹（株式会社ジェネラス 取締役社長）

在宅療養者を支える家族介護者の実態と健康支援の取り組み

堀 容子（名古屋大学医学部保健学科）

16:50 閉会の挨拶

17:30 懇親会（2階 桜）